



だより

— つながれ ひろがれ —

Vol. 81

編集 環境パートナーシップちば
代表 桑波田 和子
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団環境技術部
業務管理グループ
電話 043-246-2180
FAX 043-246-6969

エコメッセ2011inちば報告

エコメッセ2011inちば実行委員長

桑波田和子

開催のお礼

9月4日の「エコメッセ2011inちば」では、ご出展、ご協賛、ご後援、ご協力、ご来場を賜り誠にありがとうございました。

また、環境パートナーシップちばの会員のご出展、ご協力等もいただき感謝申し上げます。お陰さまで、子どもから大人までの来場者が12,000人と盛況でした。

16回目開催の今年のテーマは、環境と経済「ちば最大の環境活動見本市」でした。各出展ブースでは、来場者のために出展内容等工夫され、楽しく環境についての学びから気づきの場を提供していただき賑わっていました。

実行委員会企画では、東日本大震災(3.11)を経て、東北や千葉の被災地の方へのチャリティ販売等の支援や震災セミナー、節電対策等を行いました。また、房総ガス協議会様と共催で「エコハピ・カフェ ちばから考えよう! 3.11後の私たちの暮らし」を開催し、当会は、広報・参加

申込の対応や当日のファシリテーター等関わりました。さらに国際森林年にあたり森の資源館も賑やかでした。このように多くの内容を展示・体験することができ感謝申し上げます。

また、当日は各出展団体の皆さま始め、70名近くの当日ボランティアの方々にも応援していただきました。

運営資金面では、出展料、協賛金、ちば環境再生基金や景品のご提供等もいただきました。

運営面は実行委員のボランティアで準備開催しております。実行委員会の不手際で皆さまにご迷惑をおかけした点がいくつかございましたことを、この場をお借りしてお詫び申し上げますとともに、今後の課題とさせていただきます所存であります。

市民・大学・企業・行政等のパートナーシップが益々推進できる場としての「エコメッセ」を今後ともご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

会場の様子

エコメッセ2011inちばは午前10時の開会式前から多くの来場者があり、賑やかなスタートでした。戸谷千葉県環境生活部長のご挨拶もいただきました。

今年は、3.11の東日本大震災後で、暮らし方、生き方等考える機会が多く、環境の重要性を出展者も来場者も思いを深くする場として、エコメッセが一役を担えたと期待したいと思います。市民団体や企業ブースも親子など市民向けに分かりやすく説明や体験できる工夫が多く見られ賑やかでした。また、高校生や大学生ブースでは、液状化や生物多様性、里山活動、温暖化防止等丁寧に説明している姿が好印象でした。エコステージでは下総高校の「ひまわりエコプロジェクト」、「もったいないばあさん音頭」「森の資源



館優良作品表彰式」「節電クイズ大会」「節電メッセージ報告」等行われました。森の資源館では、竹のオブジェをくぐり抜けると、森の遊び場、体験、物販、里山カフェなど森林を体感しました。震災セミナー(202室)では、「千葉県の液状化と放射能について」放射線医学総合研究所、千葉県環境研究センターの講師からの講演を会場満杯の参加者でお聞きしました。国際会議室では、エコハピ・カフェがワールドカフェ形式で行われ、気づきから行動へ気持ち押しされる思いを持ちました。屋外では恒例の「缶つぶし大会」「エコカー展示・試乗会」「エコクッキング」が行われました。エコクイズラリーやエコレポーター等も大活躍でした。(広報部)

環境パートナーシップちばブースから

- ・ 展示：①活動紹介（印旛沼をEボートで体験しよう！、だより、HPほか）
②平成23年度環境学習指導者養成講座募集案内
- ・ 体験コーナー：主に淡水魚や印旛沼周辺にすむ生き物を釣る体験をしながら楽しく学ぶ。
★会員の方がブースに立ち寄ってくださり、近況報告など交流しました。

エコメッセ2011inちば「身近なところから節電対策」展示報告

東日本大震災と福島原子力発電所の事故により、電気の供給不足となって、さまざまな節電の取組みが家庭や会社等で広まっていることを更に推進する目的で、エコメッセの場を活用して家庭や職場での節電アイデアを事前にホームページやメール等で広く「我が家、我が社の節電対策」メッセージシートとして募集しました。また、エコメッセ来場者が参加できる参加型の企画として会場でもメッセージシートを記入していただいた結果、予想をはるかに超えた246枚のシートを会場内に掲示して紹介することができました。更に来場者にはすばらしいと思う取組みに賛同のシールを貼っていただくことで、市民のさまざまな節電行動の動向がわかり、共有化が図れたと考えています。

閉会式で賛同の多かった取組みをご紹介させていただきましたが、今後ホームページでも紹介させていただく予定です。ちなみに賛同シールの一番多かった「超いい！」取組みは、「テレビを見ないで、本を読む」でした。



(エコメッセ2011inちば実行委員
横山 清美)



『エコハピ・カフェ♪』

～エコでHAPPYな暮らしを考える。エネルギーや環境を切り口に～
メインテーマ：「3・11後の私たちの暮らし」エコハピ・カフェ

国際会議室では、今回初めて、エコメッセ2011inちば特別企画として、実行委員会と房総ガス協議会との共催で開催しました。協力団体として、当会と地球サミット2012JAPANも加わりました。

有識者によるトークでは、身近な事柄を実感のこもった言葉が印象的でした。ワールドカフェでは、多様な立場の方々と意見交換しました。ここでの意見は、来年「リオ+20」国連会議“地球サミット2012”にも“Japan VOICES”に届けられます。

<プログラム>

- 有識者によるメッセージとクロストーク
震災を通して感じたこと、これからのくらしやまちづくりについて
熊谷俊人氏（千葉市長）
工藤拓毅氏（日本エネルギー経済研究所）
倉阪秀史氏（千葉大学法経済学部教授）
飯島希氏（元NHK 気象キャスター）
橘田洋子氏（Citrus 主宰/デザインディレクター）
- ワールドカフェ ファシリテーター
船木成記氏（博報堂）（広報部）

夏休み！「印旛沼でEボート体験をしよう」の報告

8月20日（土）9時30分に佐倉ふるさと広場に集合し、Eボート体験をしました。

この事業は、LOVE OUR BAYの募金を頂き事業を開催しました。また、印旛沼流域水循環健全化会議の後援も頂きました。当会として初めての取り組みで、募集の周知が悪く参加者が少ないという課題は残りましたが、前日までの降雨が、当日は一転して好天に恵まれ、また、多くの応援スタッフの支援をいただき、楽しく充実した体験をすることができました。

1) 参加者：19名

親子（3組）、応援スタッフ（6名）：RAC*、印旛沼探検隊、地域交流センター、浦安水辺の会*川に学ぶ体験活動協議会、主催側スタッフ：環境パートナーシップちば（5名）

2) Eボートとは

この起源は古く、ドイツ海軍が用いた魚雷艇を連合軍側がE（Enemy）ボートと呼んだことに始まりますが、これを地域交流センターが水辺の環境活動等の道具として、下記のような多

様な意味づけを与えて日本に導入したものです。
(Exchange) (Environment) (Eco-life)
(Entrance) (Everybody) (Easy) (Enjoy)

その形状などは、長さ6.5m、幅1.4m、重量60kg、定員10人、ゴム製です。

3) 体験内容

まず、RACさんから安全なEボートの乗り方を、次に当会のスタッフから水辺の環境の観察のしかたを教えていただいた後に、沼に乗り出しました。30分程湖面を周回し、ボートのこぎ方、操縦法を学びながら、湖面から見た沼の水質、水草、鳥などを観察しました。

午後は、スタッフ全員がボートに乗り、大人の目で沼の自然や利用法などの観察をしました。

4) 最後に

今回のイベントでは、応援スタッフの陰ながらの力の大きさと大切さを実感しました。この場を借りて、あつく御礼申し上げます。

（広報部記）



いざ出発



オランダ風車の前をゆく



おかえりなさい

参加者募集中！

第1回 Eボート千葉大会 いんば沼

日時：10月22日（土）11：00～15：00（出場者受付：8：30）

場所：佐倉市・佐倉ふるさと広場向かい、印旛沼（鹿島川のほとり）

主催：Eボート千葉大会-いんば沼-実行委員会

後援：印旛沼流域水循環健全化会議 環境パートナーシップちば 他

募集数：一般チーム（30）ファミリーチーム（6）大学生チーム（6）

参加費：一般の部 15,000円 ファミリーの部：10,000円 大学生の部 10,000円

お申込み：<http://www.eboatchiba.web.fc2.com/> fax:03-3553-7346

★★初めての方でも安全に簡単に乗れる10人乗りのゴムボートのレースです！

第9回 印旛沼流域環境・体験フェア

～みんなをつなぐ印旛沼～

日時：10月22日（土）11：00～15：00

（雨天順延：23日）

場所：佐倉ふるさと広場向かい 入場：無料

・屋形船体験、流域ウォーキング、農産物販売、市民団体・市町パネル展 他

主催：千葉県・印旛沼流域水循環健全化会議

事務局：千葉県県土整備部河川環境課 Tel：043-223-3155

詳細：いんばぬま情報広場：<http://inba-numa.com/>

～環境学習講座 in 千葉～

千葉市環境調整課から、この夏は3件の環境学習の依頼がありました。当会が、環境教育プログラムとして提出しているものの中から、公民館講座として依頼されただけではなく、今年は環境指定校である高浜第一小学校からも依頼がありました。

● 千葉市立高浜第一小学校／買い物ゲーム

(広田、桑波田、小倉、吉田、新田、大前)

7月8日、午前中の2校時を使い、4年生(2クラス45人)を対象に、図工室で2クラス一緒に「買い物ゲーム」を行いました。

買い物ゲームとは、教室に用意されたお店で班ごとにカレーの材料を買うことで、ゴミの少ない買い物方法に気づくゲームです。それまでの情報として受けるばかりでなく、実際にみんなで協力しながら買い物をして、どうしたらごみが減るのかを競い合います。当日は、私の他に5名のスタッフでの対応となりました。

説明→作業→説明→作業と繰り返すため、どうしても注意力が散漫になってしまいがちなところ、子どもたちは、ゲームに積極的に参加してくれました。途中、手をたたいて注意を促そうとしたところ、子どもたちも一緒に手をたたき始め、教室が一体となってから説明に入る場面もあり、楽しい授業を体験させていただきました。

● 千葉市松が丘公民館／廃食油石けん作り

(広田、桑波田、道下)

7月24日、廃食油から石けんを作る講座を行いました。廃食油とは、家庭などで、揚げ物を作った後の油のことです。油の処理はおろか、料理もしない子どもたちに廃食油を理解してもらうことは少し現実的ではないのですが、見学のお母さ

んも巻き込んで、油の説明をしてから石けん作りとなりました。ペットボトルの中に、薬品、油、水などを入れ、20分間シェイクすると出来上がる簡単なものなので、1年生～6年生まで幅広く楽しんで作っていました。

● 千葉市犢橋公民館／エコキャンドル作り

(広田、加藤、小倉)

8月16日、廃食油を使ってエコキャンドル作り講座を行いました。犢橋公民館では、昨年、一昨年と2年続けて「牛乳パック紙すきハガキ作り」を行ったせいか、「今年3年目」という子も一人いました。参加者は低学年の子が多く、保護者つきで参加してくれていたおかげで廃食油の説明も滞りありませんでしたが、参加者は大人を合わせて11人だったため和気あいあいとした中で作ることができました。ふだん低学年の子は、油をビンに注ぎ分けるのも「怖い」「いやだ」という子が多いのですが、今回は、後で1年生と聞いてビックリしたほど頑張っていました。参加者の中に男の子は一人だけでしたが、「楽しかったので、来年、6年生になってもまた来る！」と言ってくれ、うれしい気持ちでいっぱいになりました。

今後、このような環境学習の依頼が増える可能性から、担い手の育成も視野に入れて取り組む必要があると感じています。(広田由紀江)



買い物ゲーム／
商品とルールの説明



買い物ゲーム／自己紹介



「廃食油から石けんを作ります」

10月エコサロンご案内

日時：10月28日(金) 午後6:00

場所：千葉市民活動センター大会議室

話題提供者：石井 吉彦 氏(有)ナチュラルシードネットワーク代表取締役

参加費：500円 (資料代)

申込み先：kuwahatak@hotmail.com

Tel: 090-5415-9074 Fax: 043-246-6969

◆ 話題：環境保全型農業 ◆
～農家と消費者を育てる～

「環境学習指導者養成講座」実施業務を 環パが受託しました 受講生 大募集中です！

千葉県は平成5年度から体験型環境学習指導者養成講座（エコマインド養成講座、など）を実施し、これまでに巣立った延べ500人以上の修了生が、現在の県内の環境保全活動の中心を担っているといってもよいくらいです。

平成23年度はこの事業が公募で実施されることになり、講師経験者や講座修了生がたくさん会員にいる環境パートナーシップちばも応募いたしました。事業内容の提案のプレゼンテーションで環パの持つ豊富な環境学習の経験を紹介した結果、環パが受託させていただくことができました。

受託内容は、環境学習指導者養成講座（導入コース、発展コース）と環境学習指導者技能向上講座の3つの講座です。このうち、導入コースはすでに10月1日に開講しています。

発展コースの開講日は11月20日、技能向上講座は12月7日に開講します。導入コースは環境学習の指導経験がない方を対象にしていますが、発展コースと技能向上講座は、すでに活動をしていらっしゃる方を対象にした、ブラッシュアップのための講座です。

実際に環境保全活動をしてみて、疑問に思うことがおありの方、より良い指導をするための技術や技能を学びたいとお感じの方、どうぞふるって受講をお申し込みください。

講座を受講することにより、知識や技能を身に着けることができるのはもちろんですが、いろいろ相談に乗ってもらえる先輩や、同じ問題に取り組んでいる仲間という「人のつながり」が得られることが、大きなメリットになると、私は考えています。

受講料は無料ですが、お金を払っても、これだけ充実した内容の講座は他にはないと、自信を持ってお勧めいたします。あなたも、ぜひ受講をお申し込みください。

・募集定員と募集期間

発展コース（定員30名）10/15～11/15
技能向上（定員20名）10/15～11/30

・申込み方法

- (1) 環パHP（<http://kanpachiba.com/>）の講座込みフォームから
- (2) チラシの申込み書に記入して、郵送またはFAX(送付先はチラシ参照)

環境学習指導者養成講座 発展コース

月日	内容・会場・講師
11/20 (日)	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイキング ・問題解決型環境学習とは ・実践するアクティビティの選定 会場：千葉まちづくりサポートセンター 講師：鈴木優子、小川かほる、桑波田和子
11/26 (土)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察、学習施設の活用方法 会場：谷津干潟自然観察センター 講師：芝原達也、小倉久子
12/17 (土)	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティの実施① 会場：千葉まちづくりサポートセンター 講師：鈴木優子、桑波田和子
1/15 (日)	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティの実施② 会場：千葉まちづくりサポートセンター 講師：鈴木優子、桑波田和子
1/29 (日)	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティの実施③ ・アクティビティからプログラムへ 会場：千葉まちづくりサポートセンター 講師：鈴木優子、横山清美、桑波田和子

環境学習指導技能向上講座

月日	内容・会場・講師
12/7 (水)	「環境学習指導のための話し方講座」 講師：鬼塚 啓介 会場：千葉市民会館会議室
1/12 (木)	「ファシリテーション実践」 講師：青木 将幸 会場：千葉市民会館会議室
1/25 (水)	「情報の活用」 講師：市野 敬介 会場：千葉市民会館会議室
2/8 (水)	「持続可能な社会の構築のために」 「講座のまとめ」 講師：重 政子、横山清美 会場：千葉市民会館会議室

* 講座の実施時間はいずれも 10:00～16:00
* お問い合わせ：090-8116-4633（講座事務局）
kanpanojimukyoku@ezweb.ne.jp（同）

ELCoの会主催「環境学習コーディネーター育成講座」実施中

平成22年3月発行の「だより」72号で、千葉県との協働事業として実施した、平成21年度環境学習コーディネーター人材育成・活用検討事業報告会とELCoの会誕生のご報告をさせていただきました。

その後、平成22年度は、千葉県環境研究センターにおいて環境学習コーディネーター（ELCo）カリキュラム実証研究のための講座が開催されました。

そして平成23年度は、ELCoの会主催でこれまでに環境学習に携わっており、今後、コーディネーターとしての活動も目指す人を対象に育成講座を実施しています。

第1日目8月28日（日）「環境学習コーディネーターとは何か」は、市野代表による講話「なぜコーディネーターが必要とされているのか？」と、受講生による発表「どんな環境教育ができる&コーディネートしたいですか？」によって受講生とのコーディネートについての共有ができたと考えています。

第2日目9月25日（日）「コーディネートする相手を知ろう」は、企業・学校・行政の立場から「企業はなぜ環境貢献活動を行うのか？」「学校はどんな環境教育を必要としているのか？」「行政はコーディネーターに何を期待するのか？」の講話後、情報収集の方法を学び、ニーズ調査の実習の方針を立てるプログラムに進みました。実習「実際に環境学習をコーディネートしてみよう」は、公民館や学校に、環境教育についてヒアリングする。情報を検索して、環境教育を提供できる人、団体を探す。ヒアリングや検索した結果をもとに、環境学習を企画する。などを実施していただく予定です。

第3日目2月25日（土）「コーディネート活動の振り返り」は、実習の結果の発表となります。今回の講座で、コーディネーターの誕生とともに課題であるニーズ開発と実践例を増やすことにつながることを期待されます。

（ELCoの会 横山清美）

千葉県県民活動促進事業（国の新しい公共支援事業）について

この事業は、国の「新しい公共支援事業の実施」のガイドラインに基づき、千葉県は、①行政との協働による取り組みの推進 ②県民活動の基盤の整備の事業メニューを国に申請し、決定されました。そこで、今年の6月末に千葉県（県民交流・文化課）は、「連携・協働による地域課題解決モデル事業」を公募し、8月に受託団体が決まり、現在事業が実施されています。

この事業の経緯は、国では平成22年10月に閣議決定された「円高・デフレ対応のための緊急総合経済対策」において、新しい公共の担い手となるNPO等が自ら資金調達し、自律的に活動することが可能となるよう環境整備を進めることとなりました。実施に当たっては、内閣府からの交付金をもとに、各都道府県が基金を造成し、平成23年度からの2年間事業として実施されます。千葉県では、この事業を活用し、県内NPO等の自立的な活動を間接的に後押しするため、平成23年度は「震災復興等県民活動推進事業」とし県議会に提出し、成立しました。

この「新しい公共」とは、「官」だけでなく、市民の参加と選択のもとで、NPOや企業などが積極的に公共的な財・サービスの提案及び提供主体となり、医療・福祉、教育、子育て、まちづくり、学術・文化、環境、雇用、国際協力などの身近な分

野において、共助の精神で行う仕組み、体制、活動等と定義されています。

新しい公共支援事業の趣旨は、行政が独占してきた領域を「公」に開く取り組みを試行することで、「新しい公共」の担い手となるNPO等の自立的活動を後押しし、「新しい公共」の拡大と定着を図るとあります。

連携・協働による地域課題解決モデル事業（市町村テーマ）は、市町村が抱える地域課題を共有し、協働事業を検討する際に、市町村、企業、NPO等5団体以上の団体で円卓会議を設置し、マルチステークホルダー・プロセス※で事業を検討し実施していきます。

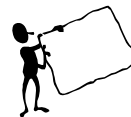
連携・協働による地域課題解決モデル事業（市町村テーマ）の選考結果は千葉県のHPに掲載されています。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kkbunka/kensoku/model/kekka.html>

※ マルチステークホルダー・プロセス：多様なステークホルダー（利害関係者）が対等な立場で参加する意思疎通と合意形成のプロセスを指す。

（広報部）

県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 6 — おききました！ この人・この団体 「亀成川を愛する会」



まずは、亀成（かめなり）川の説明から始めさせていただきます。亀成川というのは手賀沼流域のはじっこにあり、下手賀沼の出口のところに流れ込んでいる小さな川で、手賀沼に流入する川の中ではダントツ良い水質と環境を維持しています（小さくても、利根川水系ということで1級河川なのです）。

「亀成川を愛する会」の紹介パンフレットには、次のような文章が載っています。

かつては清水の流れる小川でした。
魚や貝はごっそりとれました。
川はコウホネでいっぱいでした。
葉っぱが水面の下でゆらゆらゆれて
きれいでした。

ホテルは家の中まで入ってきていました。

これらはみんな、地元の方たちからお聞きした、昔の亀成川の様子です。夢のようですね。

パンフレットには、続いてこう書かれています。

そんな亀成川とその流域を、
私たちは守りたいのです。
里山の環境や、地域の産業・伝統文化を
後世に残したいのです。

この思いを形にしたのが「亀成川を愛する会」です。2010年6月22日に発足したばかりの、まだヨチヨチ歩きの団体ですが、その活躍ぶりには目を見張るものがあります（自画自賛。）

大きな活動は「川づくり」、すなわち、亀成川の生態系を守る活動です。亀成川自体は水田地帯を流れる小川なのですが、最上流部に千葉ニュータウンが造成されているため、ニュータウン地域の雨水排水を利根川に排除するという、大きな役目を背負わされ、川幅を広げて川底を掘り下げるという、排水路に変えてしまう工事が行われてきました。

工事が上流部まで進んできたとき、もうぎりぎりのところで、有志が「愛する会」を立ち上げ、その時点でも間に合うことをできるだけ試みました。具体的な活動は、最上部の湿地部分の「河川」は湿地と一体のまま手を入れず（最上流の環境が守られれば、そこから下流にむかって生きものが増えていくことが期待されます）という要求を認めてもらったこと、河川改修区域に生息す

る希少な魚や貝類、水草は、工事期間中は安全な場所に一時避難させ、生きものをできるだけ守る努力をしたこと、河川改修工事が終了した場所は、土嚢を設置して流れを事前の川に近づけ、マコモやコウホネを植え付けるなど、できるだけ自然の回復を早めるお手伝いをしたことです。

その結果うれしいことに、「愛する会」の自然回復工区では、改修工事を行っただけの場所よりもたくさんの魚や甲殻類、貝類の生息が確認されたのです。

今年度も9月23、24日に「生きもの救出作戦」を行いました。2日間でなんと100名以上の参加者が集まり、亀成川を愛してくださる方が着実に広がっていることが実感され、うれしい限りです。

「愛する会」では亀成川の形状だけでなく、水量を確保するために、上流の水源涵養域のことも考えています。このエリアは現在すばらしい里山で、なんとキツネの生息も確認されています。亀成川の水源地確保のためだけでなく、里山を活かした街になるように、3回のまちづくりワークショップを開催して、みんなでランドデザインを考える活動もしています。

ぜひあなたも、亀成川を愛してください。

亀成川を愛する会 HP

http://www.kamenari-love.com/about_riv.html

亀成川を介する会ブログ

<http://blog.livedoor.jp/kamenarigawa/>

（文責 小倉）



運営委員会報告

8月運営委員会

日時：8月19日(金)

場所：船橋市民活動センター

報告

- ・千葉市高浜第一小学校環境学習
- ・千葉市公民館講座
- ・エコメッセ出展者説明会
- ・企業とNPOの面談会
- ・環境学習指導者養成講座
- ・印旛沼流域フェア説明会 他

9月運営委員会

日時：9月20日(火)

場所：船橋市民活動センター

報告

- ・夏休み！印旛沼Eボート体験
- ・環境学習コーディネーター人材育成講座
 - ・エコメッセ出展
- ・環境学習指導者養成講座
 - 募集案内発送
- ・企業・NPOによるパートナーシップ事業
- ・環パちばHP研修会開催

協議

- ・だより81号
- ・HPについて
- ・環境ひろば千葉について
- ・環境学習指導者人材育成講座
- ・10月エコサロン開催
- ・企業・NPOによるパートナーシップ事業
- ・水草探検・印旛沼流域フェア
- ・環境学習コーディネーター人材育成講座実施

お知らせ

平成23年度第1回

廃棄物適正処理推進シンポジウム

特別企画「日本の災害廃棄物処理の現状と課題」

日時：10月26日(水) 13:00~16:00

会場：千葉市生涯学習センター 2階ホール

内容：①基調講演 13:00~14:30

「災害現場で直面した課題、復興に向けて！」

講師：吉岡 敏明 氏

(東北大学大学院 環境科学研究科教授)

②パネルディスカッション

対象：市民、廃棄物関係の事業者・処理業者、
環境関係の団体、行政担当者他

定員：250名(申込み・先着順)

申し込み：FAX：043-221-3970

千葉県環境生活部 資源循環推進課

奇跡のリンゴを創り出した 津軽のリンゴ農家 木村秋則さん 奇跡のリンゴを語る2011

日時：11月20日(日)

14:00~16:00

場所：浦安市文化会館大ホール

Tel 047-353-1121

浦安市猫実 1-1-2 (浦安市役所隣接)

参加費：500円

講師：木村 秋則氏

主催：エコフレンド浦安

後援：浦安市教育委員会

問い合わせ先：エコフレンド浦安

服部宛 T&F 047-355-6195

★★環境パートナーシップちばのHPをリニューアルしました。★★

<http://kanpachiba.com/> 是非ご覧ください！！

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：千葉県環境財団 環境技術部
業務管理グループ 気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人 1,000円 団体 2,000円 賛助会員 5,000円		

